



岩船港・史丸のヒラメ仕掛け例

史丸は横流しを主体にするためオモリは80号を使うが、道糸がPE2号以下なら60号を使ってもよい。この日は全長2.4メートル前後のライトヒラメ竿に60号オモリを使っている人が多く見られた。基本的に根の多いところを流すため、胴に乗る軟らかい竿よりも、先調子気味で穂先の感度が高い竿をおすすめしたい。

るので注意して」と船長の合図で釣り開始。
タナは底スレスレをアジが泳ぐようなイメージで取る。海底は起伏があり、船はスパンカーをたため風を受けて横流しにするため、タナをまめに引き直すことが大切だ。オモリを引きずると根掛かりするので、底に着いたら素早くタナを切る。
東の空に朝焼けが広がり始めたころ、胴の間の釣り人にアタリがきた。水深は浅いが、

2年前に史丸に乗ったときには、1メートル超えのサワラが上がったのを見たことがある。この時期は浅場でもワラサやヒラマサなど青物が小魚の群れを追っており、不意の大型が食ってくるので油断できない。
「アジの反応は出っぱなしでもっとバリバリ食ってもよさ

魚の引きが強烈でなかなか上がってこない。
魚影が見えたところで船長がさつとタモを入れた。船中1枚目は3.4キロの良型ヒラメだった。
流し変えのたびにアタリは続く。ミヨシでは2キロ級、トモでは1キロ半の本日の平均サイズのヒラメが上がる。
トモの釣り人には強烈に糸が引き出されるアタリがきたがハリス切れ。走り方は青物のようにだったが、サワラかもしれない。



▲岩船沖では4〜8メートルダチの超浅場で大判ヒラメがヒットする

旬の沖釣りをエンジョイ!

今がチャンス!
これから楽しみ!

釣りどきレポート

Best Season Report

大型寒波の到来でいよいよ冬本番。この時期に増える車のトラブルがバッテリー上がり。早めにガソリンスタンドや整備工場でチェックしてもらいましょう。

▼エサが豊富なが肉厚なヒラメが目立つ



このポイントには周年ヒラメが着いているそうだが、ウネリが出たときには入れない。この日は微風でウネリもなく
外房岩船港をご存じの読者の方は少ないのではないだろうか。岩船港は大原港と岩和田港に挟まれた小さな漁港で、船宿は1軒しかない。
この地で3年前から遊漁船を始めたのが史丸の吉田史明船長。イセエビ漁のかたわらヒラメやマハタを独自のポイントで釣らせてくれる。
とくにヒラメ釣りは他船が入ってこない地先の超浅場のポイントを攻めることが特徴。4メートル足らずの水深で大判ヒラメが食ってくる穴場的存在だ。

「スタートしたあ！」と思わず船長に声をかけた。魚の抵抗に逆らわないようにゆっくりとリールを巻くと、ユラリと茶色い影が現れた。
タモに取まったのは2.3キロ。地着きのヒラメらしく、肉厚でポテツとしたボディだ。
そろそろ沖揚がり時間も近いところで全員がヒラメの型を見た。朝方にハリ

「やっ」と食ったあ！」と思わず船長に声をかけた。魚の抵抗に逆らわないようにゆっくりとリールを巻くと、ユラリと茶色い影が現れた。
タモに取まったのは2.3キロ。地着きのヒラメらしく、肉厚でポテツとしたボディだ。
そろそろ沖揚がり時間も近いところで全員がヒラメの型を見た。朝方にハリ

「やっ」と食ったあ！」と思わず船長に声をかけた。魚の抵抗に逆らわないようにゆっくりとリールを巻くと、ユラリと茶色い影が現れた。
タモに取まったのは2.3キロ。地着きのヒラメらしく、肉厚でポテツとしたボディだ。
そろそろ沖揚がり時間も近いところで全員がヒラメの型を見た。朝方にハリ

「やっ」と食ったあ！」と思わず船長に声をかけた。魚の抵抗に逆らわないようにゆっくりとリールを巻くと、ユラリと茶色い影が現れた。
タモに取まったのは2.3キロ。地着きのヒラメらしく、肉厚でポテツとしたボディだ。
そろそろ沖揚がり時間も近いところで全員がヒラメの型を見た。朝方にハリ

船宿information
外房岩船港
史丸
☎090-5339-5562
(詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=ヒラメ乗合一人1万2000円(エサ、氷付き)
▶備考=予約乗合、5時集合。マハタ五日、午後一つテンヤマダイへも出船



「始めてください。引っ掛か

「始めてください。引っ掛か

「始めてください。引っ掛か

「始めてください。引っ掛か

外房岩船港⇩岩船沖
フットンダライター/伊井泰洋 Yoshino Ji

超浅場ポイントを攻略
岩船沖のヒラメ高活性

岩船地蔵尊
岩船港の南側には、この地名の由来となっている岩船地蔵尊がある。各地の岩船地蔵と同じくここ岩船港の地蔵尊も海上安全・五穀豊穡・諸願成就の守り本尊として地域の信仰を集めている。朱色の御堂には室町時代に作られた木製の地蔵尊が祀られており、町指定の文化財にもなっている。
実は今回の史丸取材は2回目、初回はシケの影響で釣果が振るわず再取材になったのだが、帰港後に岩船地蔵尊に赴き、次回の好釣を祈願して帰途についたのだった。その祈りが通じたのか、この日は潮が直って好釣果に恵まれた。お地蔵さまに感謝である。
▶年末年始は岩船のパワースポットで大漁祈願